（2）校区問題の整理（修正後）

問題点の区分				問題の内容（例）	主な該当校 （目安）	優先度が高い項目
学校規模の問題	**過小規模校**	**A1**	小規模化により教育上の問題が発生する（または懸念される）場合	児童生徒が減少し、学校として成り立たなくなる恐れがある。 児童生徒数が少ないことで様々な問題点（部活・行事等）が懸念される。 交友関係の狭さなどにより健全な発育が阻害される懸念がある。	（特別支援学級以外で６学級未満の学校）［人数は 23 年度］ 逢坂小（５学級　４９名） 瑞穂小（４学級　４０名） 神戸小（４学級　３４名） 東郷小（４学級　３２名） 明治小（４学級　３１名） 鹿野中（４学級１１４名） 江山中（３学級　８８名） 福部中（３学級　８１名） ※ 小中一貫校とした湖南学園と統合決定した用瀬中・佐治中は除く	○
	過大規模校	**A2**	大規模化により教育上の問題が発生する（懸念される）場合	児童生徒（クラス）が多すぎて目が行き届かなくなる。	現時点では該当なし	
		A3	増築など施設整備の必要があるものの、整備が困難である。	教室が不足したり、体育館、グラウンドなどの利用に支障をきたす。	南中 ※ 但しまだ状況が明確でなく推移を見極める必要がある。	
通学に関する問題		**B1**	通学距離・時間が長い。	通学の負担が大きい。	特になし	
		B3	通学手段を検討すべき箇所	公共交通がなく、スクールバスの導入が必要である等	特になし （鹿野町の一部でスクールバスを運行している）	
適正配置		**C1**	現在の学校より近くに別の学校があり保護者などから要望や苦情がある	近くの学校の方が便利であり通学も安全だが、校区が定められている。	雲山地区（米里小） 南城北団地（城北小、北中）	○
		C2	通学路に危険がある。 （交通量の多い道路、橋、踏切等）	通学上の危険がある。	城北小（八千代橋）など。	○
		C3	校区と自治会が整合しない地域	自治会活動や子供会の活動に児童が参加しにくい。 自治会から校区変更の要望がある。	徳吉、徳尾など 上段、上原など その他	○
		C4	中心市街地の狭い範囲に学校がある	至近距離にある学校は統合すべき。（新市と比べ校区が狭く不公平だ）	遷喬小、醇風小、久松小など	○
		C5	その他地区からの要望がある	町内会からの校区変更要望	天神町の一部（棒鼻地区に属する区域）など	

（3）過去の答申と対応について

A 小規模校にかかる答申

答申時期	内容	その後の措置等
昭和５０年 １２月	明治､神戸､東郷各小学校の小規模校について 通学距離、交通事情等を考慮して、当分の間現状通りとする。但し、明治小学校区については過疎化が甚だしいので、教育効果が低下しないよう早急に校区の再検討も含め適切な方策を講ずること。	
	遷喬小学校区について 年次的に児童数が減少し、今後１学年１学級程度の規模となることが見込まれるので、適当な時期に隣接校との統合を図るか、分散廃止か、いずれか一方とし、具体的改編はその時点で定める。	
平成５年１月	遷喬小学校区について 同校区では「鳥取市旧市街地中心地区地区更新基本計画」をベースにした「鳥取市特定商業集積基本構想」の策定が進んでおり、その中で住環境の改善、遷喬小の校舎の改築に併せた文化の核づくりと専門店街の形成等がうたわれており、地域住民並びに行政の努力によって児童生徒の増加が期待されている。 　こうした情勢の中、（中略）本市においても「特色のある学校づくり」「開かれた学校」等が求められていることから、校区を現在のままとし、地域の計画と整合するような学校として改築を検討することが望ましい。	平成７年３月改築

B 適正配置からみた懸案地区

B１ 米里小学校（雲山地区）

答申時期	内容	その後の措置等
昭和５０年 １２月	津ノ井小・米里小の統合 「両校とも隣接地域であり、通学距離等からみても統合して適正規模にし、施設、設備の改善をはかることが必要である。」	実施されず。
昭和５４年 ５月	津ノ井小、米里小について 「津ノ井小学校区は、昭和６０年現在推計によると児童数、学級数が増加し、さらに大規模な住宅造成計画が見込まれ、今後、激増することが予測されるので、校区は現在のままとする。米里小学校区についても漸次増加の傾向にあるので、そのままとする。なお、米里小学校区については、新しく造成された雲山南団地地区を加える。	
昭和５７年 １０月	美保地区について 「現在、宅地造成が進行中の大覚寺・吉成・雲山および新にまたがる地区については、当面、大覚寺および吉成地区は美保小学校区、雲山地区は米里小学校区、新地区は面影小学校区とする。しかし、将来的には町名・町界の変更、その他情勢の推移を見極め、校区を再検討する必要がある。」	
平成６３年 １０月	校区の一部修正（宅地の区画に合わせる） 吉成･雲山の一部を面影小へ 新･雲山の一部を美保小へ 大覚寺の一部を米里小へ	実施されず。 （当初、住居表示制度が実施される予定であったため、その時点での変更を予定していたが、その後住居表示が行われないままになっている）

Ｂ２ 城北小学校（千代川以西）

答申時期	内容	その後の措置等
昭和５０年 １２月	校区の再編 ①田園町１・２丁目および西品治(狐川以南)を醇風小校区へ ②安長(千代川以西)、商栄町を世紀小校区へ （浜坂小を分離新設したが、さらに増加が見込まれるため、校区を再編して対応する）	実質的に北中学校の過大規模化を解消するための答申であったが、結局、昭和５７年１０月の答申に基づき、昭和６０年４月に中ノ郷中を分離新設したため実施されず。
昭和５４年 ５月	用地の先行取得 「本地区には、現在、民間企業により安長・徳吉・古海地区にまたがる住宅団地(400戸､約1200人､昭和56年～58年開発予定)の造成が進行中である。さらに、これと隣接した地域に、かなり大規模な土地区画整理事業が計画されつつある。」 「城北南団地の開発並びに安長地区の開発に伴う校区の改正は、時期尚早であるが、長期的には人口増加が予想されるので、用地を先行取得することが必要である。」	実施されず。 当時、邑法第一中学校(国府町との一部事務組合で運営)の解消に伴う中学校の新設(桜ケ丘中学校)､岩倉小学校の新設、東中学校の移転新築と修立小学校の移転などが優先されていたためと考えられる。
昭和６３年 １０月	校区の修正 城北小・世紀小・大正小の３地区にわたる地域（現在の南安長１丁目、緑ヶ丘１丁目）についての校区の修正。 ※従前の古海(大正小)、徳吉･徳尾(世紀小)、安長(城北小)にまたがって開発された地域について、道路区画により校区を再編。	答申どおり実施。 （現在の南安長１丁目、緑ヶ丘１丁目） 資料図面参照（但し修正前の区画は省略）
平成１９年 １２月	継続審議の必要性 千代川左岸の城北小学校区については、合理的で安全な通学を図る必要がある。しかし、該当地域における一部自治会構成の変更が予測され、さらに詳細な調査検討が必要である。従って「後期校区再編計画」で継続審議することが望ましい。	現在審議中

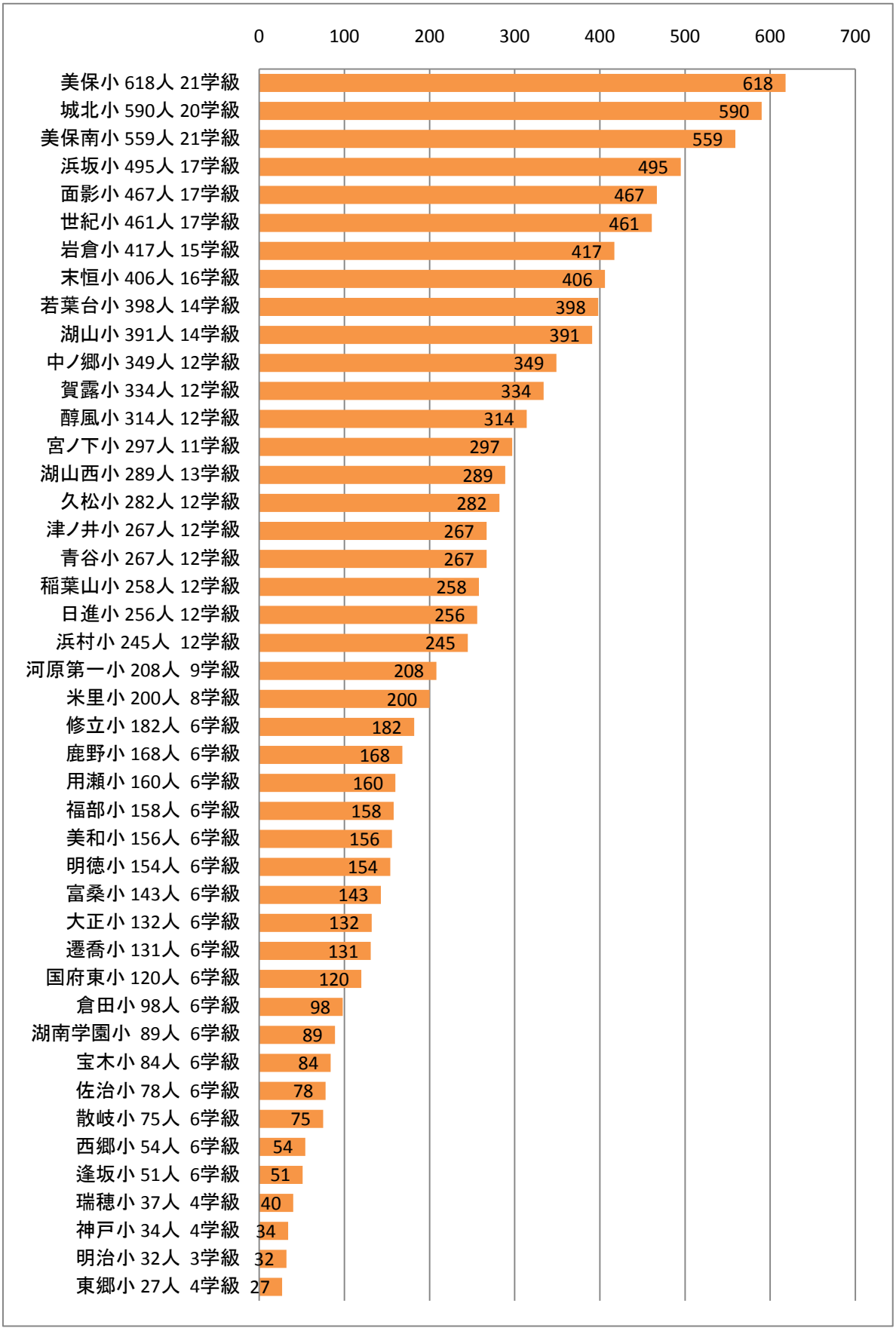
（4）課題のある主な地域について（議論のたたき台）

校区、地区	課題点、考えられる対策等の例
気高地域の小規模校 (瑞穂小、逢坂小) (宝木小)	・小規模化が進んでいる。(特に瑞穂、逢坂) ・統合を考えた場合、瑞穂&宝木、逢坂&浜村という組み合わせが考えられるが、青谷地域、鹿野地域が１校に統合したことを考えれば、浜村小も含めた４校を統合することも考えられる。 ・４校を統合する場合、スクールバスの運行などを考える必要がある。 ・南部側の地区は、鹿野小のほうが近くなる地域がある。この地域ではかつて鹿野中学校に通っていたことがあり、鹿野小への通学を望む意見も想定されるが、現在の地域を分割することになれば新たな問題となることも考えられる。
神戸小、東郷小	・神戸&美和、東郷&大正という組み合わせの統合が考えられる（谷としてはつながった地域なので組み合わせとしては妥当と考えられる）。 ・但し、宅地開発で大正小の増加が見込まれ教室数に余裕がない状態となっている。
明治小	・統合の場合、世紀小に統合することが適当と考えられる。 ・上原、上段など、明治地区(公民館)であるのに小学校は世紀となっている地域があり、これらを明治小校区に変更して児童を増やしてほしいという要望もある。
城北小(千代川以西)	・通学距離が２㎞となっており、交通量の多い千代川土手や八千代橋を渡って通学することに対する苦情がある(世紀小へは１．６㎞ 大正小へは１．５㎞)。 ・高草中が至近距離にあるにも関わらず、３．６離れた北中にバスで通うことに対する苦情もある。 ・同じ団地であるのに学校が分かれること、またその境界について合理的理由がないことに対する批判がある(特に南安長２丁目・３丁目、緑ヶ丘２丁目・３丁目) ・当該地域(城北小)では、近年城北公民館に加入するなど地域としては城北を希望しており、見直しについては希望していない。
米里小(雲山地区)	・近くに面影小があるのに、２．８㎞ 離れた米里小に通学することについて保護者からの苦情がある。 ・同じ地域(団地)の中で校区が分かれており、解消されないままになっている。 ・この団地を面影小に変更しようとしても、面影小の児童数が増加しているため施設に収容できない。 ・米里小の児童の８，９割が雲山地域であり、校区を変更することは小学校の存廃問題となる。自治会としては見直しを要望していない。
中心市街地 (遷喬小､醇風小､久松小)	・至近距離に小学校があることについて、新市域では統合が進んでいるのだから中心部も行うべきだという意見がある。 ・遷喬小の児童数が減少しており対策を考えるべき状況にある。 ・中心市街地の活性化の観点から統合がマイナスになるという考え方も想定される。 ・醇風小、久松小については現状で教育環境に問題はないので、統合対象となることについては反発が予想される。

（５）学校規模について

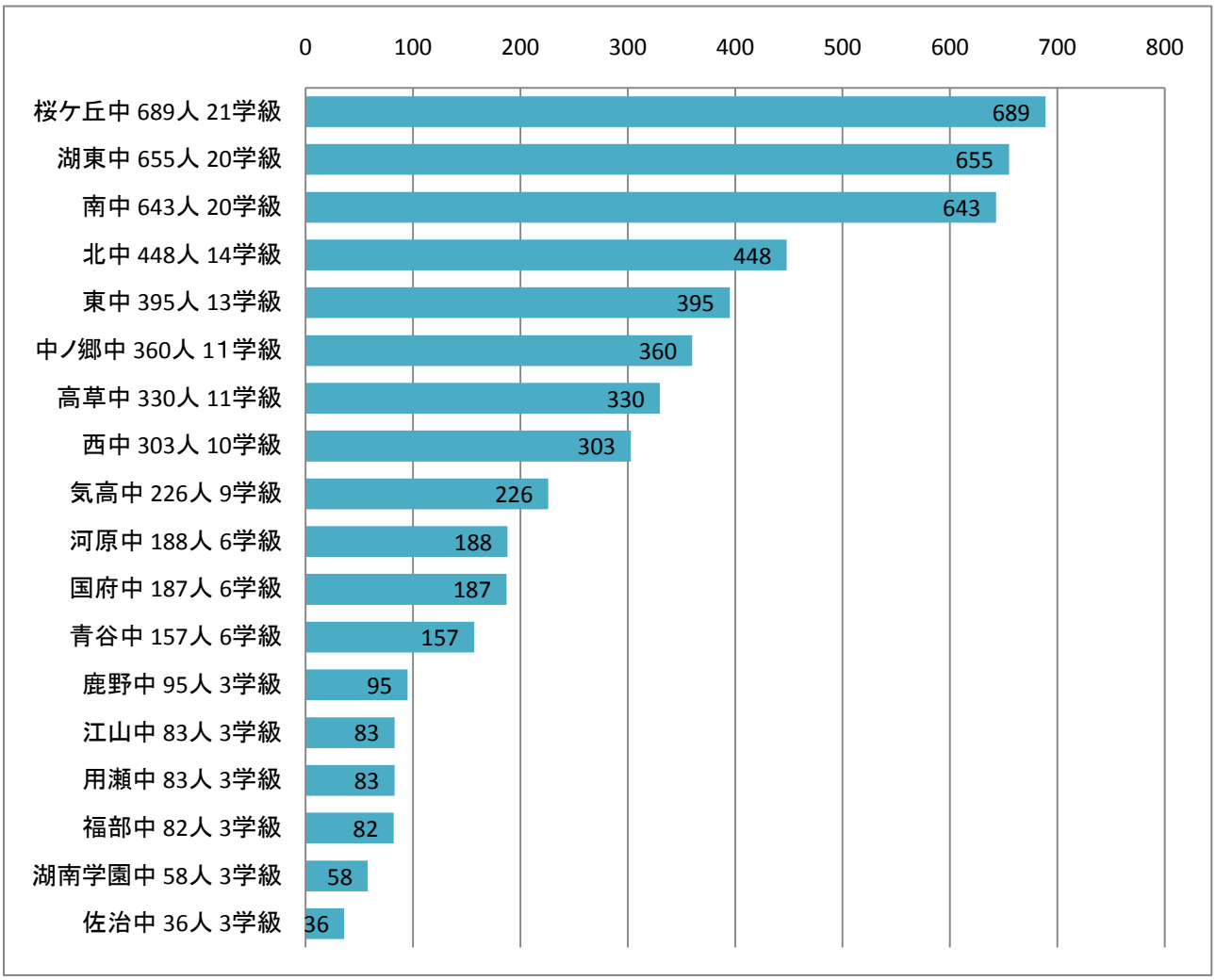
小学校

※データは２４．４．１（３．３１時点の推計）



中学校

※データは２４．４．１（３．３１時点の推計）



（6）中学校区毎の児童・生徒数の推移

1 東中学校区

平成２４年3月３０日現在

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**修立小**	**１６６名**	６学級	**１８２名**	６学級	←	⇨	**２１６名**	
	稲葉山小	**２６３名**	１０学級	**２５８名**	１２学級	←	⇨	**２０８名**	
	岩倉小	**４０５名**	１２学級	**４１７名**	１５学級	←	⇨	**４６８名**	
中学校	**東中**	**４１９名**	１１学級	**３８５名**	１３学級	１２学級	⇨	**４２５名**	４６１名

※1 児童・生徒数には特別支援学級の人数を含み、学級数には特別支援学級を含まない。
※2 学級数はいずれも小学校１・２年は１学級３０人定員、中学校１年は３３人定員で算出。
（平成２４年度については、他の学年における３５人学級の有無で比較）
※3 平成２９年度、３３年度の推計は、平成２３年５月１日時点のデータを使用。

【動向】
・修立小、岩倉小で増加傾向にあり、稲葉山小は将来的には若干減少する見込みである。
・東中学校は若干変動があるものの、ほぼ横ばいと見込まれる。

2 西中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**醇風小**	**３３２名**	１２学級	**３１４名**	１２学級	←	⇨	**２７９名**	
	富桑小	**１３２名**	６学級	**１４３名**	６学級	←	⇨	**１６１名**	
	明徳小	**１４７名**	６学級	**１５４名**	６学級	←	⇨	**１６３名**	
中学校	**西中**	**３１１名**	１０学級	**３０３名**	１０学級	←	⇨	**３０６名**	２９９名

【動向】
・醇風小は減少が見込まれるが、富桑小・明徳小については宅地開発やマンション建設等でほぼ横ばいの状況である。
・西中学校はほぼ横ばいと見込まれる。

3 南中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**日進小**	**２４１名**	１０学級	**２５６名**	１２学級	８学級	→	**３４７名**	
	美保小	**５９８名**	１８学級	**６１８名**	２１学級	１９学級	↗	**７６７名**	
	倉田小	**９８名**	６学級	**９８名**	６学級	←	→	**１２９名**	
	美保南小	**５４２名**	１８学級	**５５９名**	１９学級	←	→	**６０１名**	
中学校	**南中**	**６５５名**	１９学級	**６４３名**	２０学級	１９学級	↗	**７３２名**	９４４名

【動向】
・全ての小学校で増加傾向が続いており、特に大規模校である美保小・美保南小の増加が顕著である。
・南中学校で２９年度以降著しい増加が予想され、予断を許さない。

4 北中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**久松小**	**２８９名**	１１学級	**２８２名**	１２学級	１１学級	→	**２３８名**	
	遷喬小	**１３６名**	６学級	**１３１名**	６学級	←	→	**８６名**	
	城北小	**５８１名**	２０学級	**５９０名**	２０学級	←	→	**６９４名**	
中学校	**北中**	**４４７名**	１３学級	**４４８名**	１４学級	１３学級	→	**５０８名**	５０３名

【動向】
・久松小、遷喬小で減少傾向にあり、特に遷喬小では過小規模となる懸念がある。一方、城北小学校では増加が続いている。
・結果的に、北中学校はほぼ横ばいの予想となっている。

5 江山中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**美和小**	**１４８名**	７学級	**１５６名**	７学級	←	⇨	**１４０名**	
	神戸小	**３４名**	４学級	**３５名**	４学級	←	⇨	**２８名**	
中学校	**江山中**	**８８名**	３学級	**８３名**	３学級	←	⇨	**８６名**	８９名

【動向】
・美和小はほぼ横ばいであるが、神戸小の減少が続いており、３０名を切る見込みである。
・江山中はほぼ横ばいの予想となっているが小規模化が進んでいる。

6 高草中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**大正小**	**１２７名**	６学級	**１３２名**	６学級	←	⇨	**１６１名**	
	東郷小	**３２名**	４学級	**２７名**	４学級	←	⇨	**２４名**	
	明治小	**３１名**	４学級	**３２名**	４学級	←	⇨	**１９名**	
	世紀小	**４８０名**	１７学級	**４６１名**	１７学級	←	⇨	**４５５名**	
中学校	**高草中**	**３３７名**	１１学級	**３３０名**	１１学級	１０学級	⇨	**３２７名**	３２４名

【動向】
・東郷小・明治小の減少による小規模化が深刻な状況を迎えつつある。
・世紀小は横ばいの状況であるが、大正小は宅地開発により増加傾向にある。
・高草中はほぼ横ばいの見込みとなっている。

7 湖東中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**賀露小**	**３１９名**	１２学級	**３３４名**	１２学級	←	⇨	**３４０名**	
	湖山小	**３９１名**	１４学級	**３９１名**	１４学級	１３学級	⇨	**４３７名**	
	湖山西小	**３２１名**	１３学級	**２８９名**	１３学級	←	⇨	**３３４名**	
	末恒小	**４１２名**	１３学級	**４０６名**	１６学級	１３学級	⇨	**３３９名**	
中学校	**湖東中**	**６５０名**	１８学級	**６５５名**	２０学級	１９学級	⇨	**７２４名**	７６７名

【動向】
・湖山小で増加傾向であるが、他はほぼ横ばいである。
・湖東中で増加が見込まれる。

8 湖南学園中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**湖南学園小**	**９５名**	６学級	**８９名**	６学級	←	⇨	**８４名**	
中学校	**湖南学園中**	**５３名**	３学級	**５８名**	３学級	←	⇨	**４６名**	４３名

【動向】
・少しずつ減少している。
・小中一貫校として独自のカリキュラムを組んでおり、小規模校特別転入制度などによる生徒数の維持を目指している。

9 桜ケ丘中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**面影小**	**４５７名**	１５学級	**４６７名**	１７学級	１６学級	⇒	**４８１名**	
	米里小	**２０３名**	９学級	**２００名**	８学級	７学級	⇒	**２５１名**	
	津ノ井小	**２７１名**	１１学級	**２６７名**	１２学級	１１学級	⇒	**２７２名**	
	若葉台小	**４３９名**	１６学級	**３９８名**	１４学級	←	⇒	**２５０名**	
中学校	**桜ケ丘中**	**６６８名**	２０学級	**６８９名**	２１学級	１９学級	⇒	**６６４名**	６１７名

【動向】
・面影小、津ノ井小についてはほぼ横ばいであるが、米里小が増加傾向となっている。
・若葉台小は減少が加速する見込みである。
・桜ケ丘中はほぼ横ばいと見込まれる。

１０ 中ノ郷中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**中ノ郷小**	**３４３名**	１２学級	**３４９名**	１２学級	←	⇒	**２５９名**	
	浜坂小	**４９８名**	１５学級	**４９５名**	１７学級	１６学級	⇒	**５３６名**	
中学校	**中ノ郷中**	**３３７名**	１０学級	**３６０名**	１１学級	←	⇒	**４１４名**	３８２名

【動向】
・中ノ郷小で減少が見込まれるが、浜坂小は増加傾向にある。
・結果として、中ノ郷中は増加傾向となっている。

１１ 国府中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**宮ノ下小**	**３０２名**	１１学級	**２９７名**	１１学級	←	⇨	**３９３名**	
	国府東小	**１２５名**	６学級	**１２０名**	６学級	←	⇨	**１０１名**	
中学校	**国府中**	**１７７名**	６学級	**１８７名**	６学級	←	⇨	**２０７名**	２６１名

【動向】
・宮ノ下小が増加傾向、国府東小が減少傾向にある。
・国府中は増加傾向となっている。

１２ 福部中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**福部小**	**１７０名**	６学級	**１５８名**	６学級	←	⇨	**１３８名**	
中学校	**福部中**	**８１名**	３学級	**８２名**	３学級	←	⇨	**８０名**	７８名

【動向】
・少しづつであるが、小中ともに減少傾向が続いており小規模化の懸念がある。

１３ 河原中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**河原第一小**	**２０４名**	８学級	**２０８名**	９学級	８学級	⇨	**１９９名**	
	西郷小	**６８名**	６学級	**５４名**	６学級	←	⇨	**４５名**	
	散岐小	**７８名**	６学級	**７５名**	６学級	←	⇨	**７６名**	
中学校	**河原中**	**１８８名**	６学級	**１８８名**	６学級	←	⇨	**１７１名**	１７２名

【動向】
・全体的に減少傾向にあり、西郷小・散岐小は小規模化が懸念される。

１４ 用瀬・佐治中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**用瀬小**	**１６４名**	６学級	**１６０名**	６学級	←	⇨	**１２７名**	
	佐治小	**７８名**	６学級	**７８名**	６学級	←	⇨	**６１名**	
中学校	**用瀬中**	**８９名**	３学級	**８３名**	３学級	←	⇨	**１１３名**	８６名
	佐治中	**４３名**	３学級	**３６名**	３学級	←			

【動向】
・佐治中・用瀬中の統合を決定したが、全体的に減少傾向が続いている。

１５ 気高中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**宝木小**	**８７名**	６学級	**８４名**	６学級	←	⇨	**７８名**	
	瑞穂小	**４０名**	４学級	**３７名**	４学級	←	⇨	**４５名**	
	浜村小	**２５３名**	１２学級	**２４５名**	１２学級	１１学級	⇨	**２２３名**	
	逢坂小	**４９名**	５学級	**５１名**	６学級	←	⇨	**２６名**	
中学校	**気高中**	**２４２名**	８学級	**２２６名**	９学級	８学級	⇨	**１９９名**	２０６名

【動向】
・全体的に減少傾向にあり、特に瑞穂小・逢坂小で小規模化が著しい。

１６ 鹿野中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み(35人学級)	(40人学級の場合)			
小学校	**鹿野小**	**１６９名**	７学級	**１６８名**	６学級	←	⇨	**１７０名**	
中学校	**鹿野中**	**１１４名**	４学級	**９５名**	３学級	←	⇨	**９１名**	８４名

【動向】
・小中ともに少しずつ減少する傾向にある。

１６ 青谷中学校区

区分	学校名	平成２３年度		平成２４年度			増減傾向	児童・生徒数推計	
		児童・生徒数	学級数	児童・生徒数	学級数			平成２９年度	平成３３年度
					見込み（35人学級）	（40人学級の場合）			
小学校	**青谷小**	**２８４名**	１２学級	**２８７名**	１２学級	１１学級	⇒	**２３２名**	
中学校	**青谷中**	**１７４名**	６学級	**１５７名**	６学級	←	⇒	**１２４名**	１１３名

【動向】

・小中ともに減少傾向にある。